

HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic

ソフトウェアバージョン: 1.01

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2014 年 11 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 11 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoftグループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。www.hp.com/golivenetwork このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

サポート

このドキュメントでは、HP Live Network のコミュニティコンテンツについて説明します。Hewlett Packard Software は、コミュニティコンテンツに関してテスト、認定、サポートを行うものではありません。サポート、設定、ユーザビリティに関する疑問点がある場合は、HP Live Network のコミュニティコンテンツのディスカッションフォーラムを使用するか、コミュニティコンテンツの最初の投稿者に直接連絡してください。コミュニティコンテンツの情報をお客様の環境に適用する前に、適切な OMi Management Pack for Oracle WebLogic ファイルをすべてバックアップしてください。

目次

第1章: はじめに	5
このマニュアルで使われている略語	5
関連ドキュメント	6
ライセンス	6
第2章: OMi MP for Oracle WebLogic のインストール	7
インストールメディア	7
インストールの前提条件	8
ソフトウェア要件	8
ユーザ権限	9
インストール時のチェックリスト	9
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	10
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	11
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール	11
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール	12
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	14
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	16
BSM または OMi での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール	16
Linux BSM または OMi サーバの場合	16
Windows BSM または OMi サーバの場合	18
OMi MP for Oracle WebLogic 1.01 のインストール	19
Operations Orchestration (OO) フローのインストール	20
OO フローのアップロード	20
ライセンスの適用	21
OMi MP for Oracle WebLogic のインストールの確認	21
第3章: 作業の開始	23
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	23
タスク 2: トポロジ同期設定の確認	23
タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化	24
タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ	24
タスク 5: 検出の確認	26

タスク 6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ	26
タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ	27
タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ	30
タスク 7: 拡張トポジの検出の確認	32
ドキュメントのフィードバックを送信	34

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic (OMi MP for Oracle WebLogic) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、環境内で稼働する WebLogic アプリケーション サーバーの主要および詳細コンポーネントと基盤 インフラストラクチャを監視できます。OMi MP for Oracle WebLogic には、Oracle WebLogic アプリケーション サーバーの状況およびステータスを監視するための次のコンポーネントが含まれています。

- WebLogic 管理テンプレート
- WebLogic アспект およびポリシーテンプレートの使用
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- イベント タイプ インジケータ (ETI)
- 状況 インジケータ (HI)
- トポロジ ベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- Operations Orchestration (OO) フロー
- HI 割り当て
- KPI 割り当て
- ツール
- グラフテンプレート

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for Microsoft SQL Server のオンライン ヘルプ またはオンライン ヘルプの PDF 版を参照してください。

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i

名称	説明
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for Oracle WebLogic DVD
BSM DPS	BSM データ処理 サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Oracle WebLogic	HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for Oracle WebLogic の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンライン ヘルプの PDF 版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに 1 ライセンスを使用します。たとえば、ライセンス パックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス 5 個、OMi MP for Oracle Database のライセンス 10 個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for Oracle WebLogic のインストール

この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for Oracle WebLogic のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for Oracle WebLogic のインストールメディアについて説明します。OMi MP for Oracle WebLogic は OMi MP for Oracle WebLogic DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for Oracle WebLogic DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS)とゲートウェイサーバ(BSM GWS)にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for Oracle WebLogic] に移動します。 OMi コンソールの ? メニューから使用可能。 OMi コンソールから、 ? > [全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for Oracle WebLogic] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">管理テンプレートの使用アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	

ドキュメント	場所	目的
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">• 主要な機能• インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、Linux および Windows BSM サーバーでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

ソフトウェア要件

OMi MP for Oracle WebLogic をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
JRE	1.6 以降

注: 64ビットの HP Operations Agent では 64ビットの JRE を、32ビットの HP Operations Agent では

32ビットのJREを使用する必要があります。

* サポートされている最新バージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

SiteScope サーバー:

コンポーネント	バージョン
SiteScope	11.22 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポートマトリックスを参照してください。

注: ハイブリッド Weblogic 管理テンプレートをデプロイする場合、SiteScope 11.22 以上のバージョンをインストールする必要があります。

ユーザ権限

ユーザには、WebLogic Admin Server 用に割り当てられたローカルの WebLogic 管理者権限が必要です。

LDAP ディレクトリを使用している場合は、ローカルの WebLogic インスタンスに LDAP のユーザアカウントと同じようなユーザアカウントを作成し、そのユーザに管理者権限を付与する必要があります。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for Oracle WebLogic のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

管理対象サーバ

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.23 以降のインストール	『BSM インストールガイド』を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。

タスク	参照先
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」 の項を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle WebLogic 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
OMi MP for Oracle WebLogic 1.01 のインストール	「OMi MP for Oracle WebLogic 1.01 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注: BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for WebLogic をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、こ

の追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新はMPDVDに収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「[一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-content-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-content-server.war` ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. `HPOprMA_update.zip` を一時フォルダに展開し、`opr-config-content-server.war` を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい `war` ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

BSM または OMi での OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for Oracle WebLogic を BSM サーバ(Linux または Windows) または OMi サーバ(Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for Oracle WebLogic を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic がすべての BSM サーバ(BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント] に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic が DPS およびゲートウェイサーバを含むすべての BSM サーバにインストールされている必要があります。

OMi MP for Oracle WebLogic を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。

3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。

6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle WebLogic をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h` | `-help`: ヘルプメッセージを表示します。

`<MP ロケール>` は次のように指定できます。

- `zh_CN`: 簡体中国語ロケール
- `ja`: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for Oracle WebLogic はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Oracle WebLogic が DPS およびゲートウェイ サーバを含むすべての BSM サーバにインストールされている必要があります。

OMi MP for Oracle WebLogic を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>
英語以外の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Oracle WebLogic をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Oracle WebLogic のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

OMi MP for Oracle WebLogic 1.01 のインストール

この項では、Windows および Linux BSM サーバでの OMi MP for Oracle WebLogic 1.01 のインストールについて説明します。

OMi MP for Oracle WebLogic バージョン 1.01 zip ファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. **OMi_MP_for_WebLogic_Update_01.01.001.zip** ファイルを一時保存場所にコピーします。
2. 内容を下記に解凍します。

```
temp/omimp
```

コマンドラインを使用した OMi MP for Oracle WebLogic のインストール

Windows の場合:

1. コマンド プロンプトを開きます。
2. temp/omimp フォルダに移動します。
3. 次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i.
```

UNIX の場合:

1. root ユーザとしてログオンします。
2. temp/omimp に移動します。
3. 次のコマンドを実行します。

```
/mpinstall.sh -i
```

Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for Oracle WebLogic の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for Oracle WebLogic での HP OO Studio (バージョン 9.0x) の OO フローのインストールについて説明します。

注: OMi MP for Oracle WebLogic に付属する OO フローは、HP Operations Manager (HPOM) サーバで管理される Smart Plug-in でアプリケーションを監視するデプロイメントシナリオでのみ使用できます。この場合、OMi MP for Oracle WebLogic に含まれた OO フローを OO サーバにインストールし、OMi-OO 統合を通じて OO フローを起動できます。OMi-OO 統合の詳細は、『BSM - Operations Orchestration Integration Guide』を参照してください。

OO フローのアップロード

OMi MP for Oracle WebLogic から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. **HPOprOOJEE90.jar** を、HP OO Studio (バージョン 9.0x) がインストールされているシステムの一時ディレクトリにコピーします。

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<temp>/HPOprOOJEE90" -centralPassword <centralpassword>
```

注: コンテンツのインストールの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』の「Installing the content」を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

../Library/Operations Management/..

3. BSM コンソールから、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

BSM では、[管理] > [統合] > [Operations Orchestration] をクリックします。

OMi では、[管理] > [操作コンソール] > [ランブック マッピング] をクリックします。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。

新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

BSM で [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログ ボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ 3 を実行する必要があります。

3. (オプション) ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

OMi MP for Oracle WebLogic のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for Oracle WebLogic のインストールの確認について説明します。

OMi MP for Oracle WebLogic のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Oracle WebLogic 1.00** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Oracle WebLogic 1.00** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツ パックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

この項では、WebLogic アプリケーション サーバを監視し、OMi のイベントおよび状況パースペクティブを表示するための HP OMi MP for Oracle WebLogic の標準設定コンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

タスク 2: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは CI を HP Operations Manager で監視している場合、トポロジ同期の設定を確認することをお勧めします。

1. [オペレーション管理の管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。

[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャの設定]

2. [インフラストラクチャ設定] マネージャで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync にはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他の Topology Sync パッケージとともに、`default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE` があることを確認してください。

タスク3: エンリッチメント ルールの有効化

同じ名前の複数の j2eedomain CI を 1 つの CI エンティティとして調整するには、エンリッチメント ルールを有効にする必要があります。エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。

[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ]

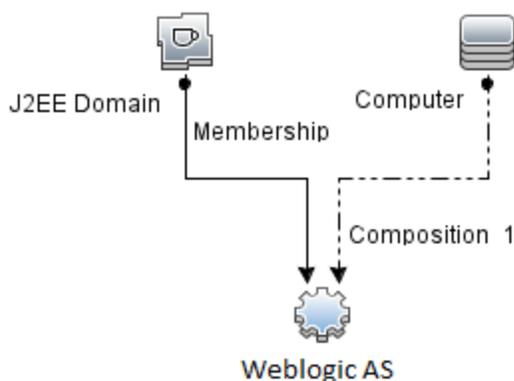
2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから **[SoftwareElementDisplayLabelForNewHost]** を選択します。
3. 右クリックして **[プロパティ]** を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。
4. **[次へ]** をクリックします。
5. **[ルールを有効にする]** を選択します。
6. **[完了]** をクリックします。
7. [エンリッチメント ルール] ペインで、 をクリックして変更を保存します。
8. [エンリッチメント ルール] ペインで、**[Root] > [Operations Management] > [J2EE Application Servers]** をクリックします。
9. **WebLogicJ2EEDomainReconciliation** を選択しステップ 3 ~ 7 を繰り返します。

タスク4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ

WebLogic 検出アスペクトにより、環境内の WebLogic Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の WebLogic アプリケーション サーバ構成アイテム (CI) を検出するには、WebLogic 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、次の CI タイプ (CIT) の CI が検出されます。

- j2eedomain
- weblogicas



WebLogic 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle WebLogic 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダで **[WebLogic 検出]** アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. [構成アイテム] ページで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムをクリックし、**[次へ]** をクリックします。

[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。

5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。

6. (オプション) **[すべてのパラメータ]** タブで、パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択してから  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アスペクトレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

7. **[次へ]** をクリックします。

- オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
- [完了]** をクリックします。

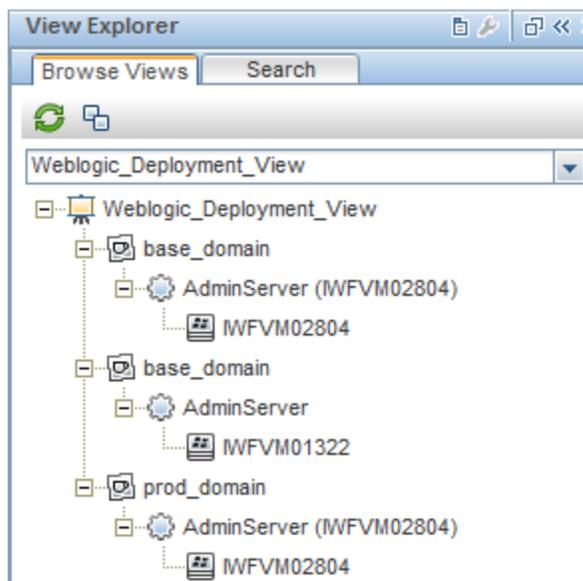
注: WebLogic 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク5: 検出の確認

検出アスペクトをデプロイした後、View Explorer に CI が表示されていることを確認する必要があります。

- [アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。

[View Explorer] で、ドロップダウンリストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI を確認できます。



タスク6: WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite アプリケーション ライセンスを使用している場合は、WebLogic 管理テンプレートを j2eedomain CI にデプロイするか、または WebLogic アスペクトを weblogicas CI にデプロイできます。WebLogic 管理テンプレートのデプロイの詳細は、[「タスク 6a: WebLogic 管理テンプレート](#)

[の特定とデプロイ](#)を参照してください。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

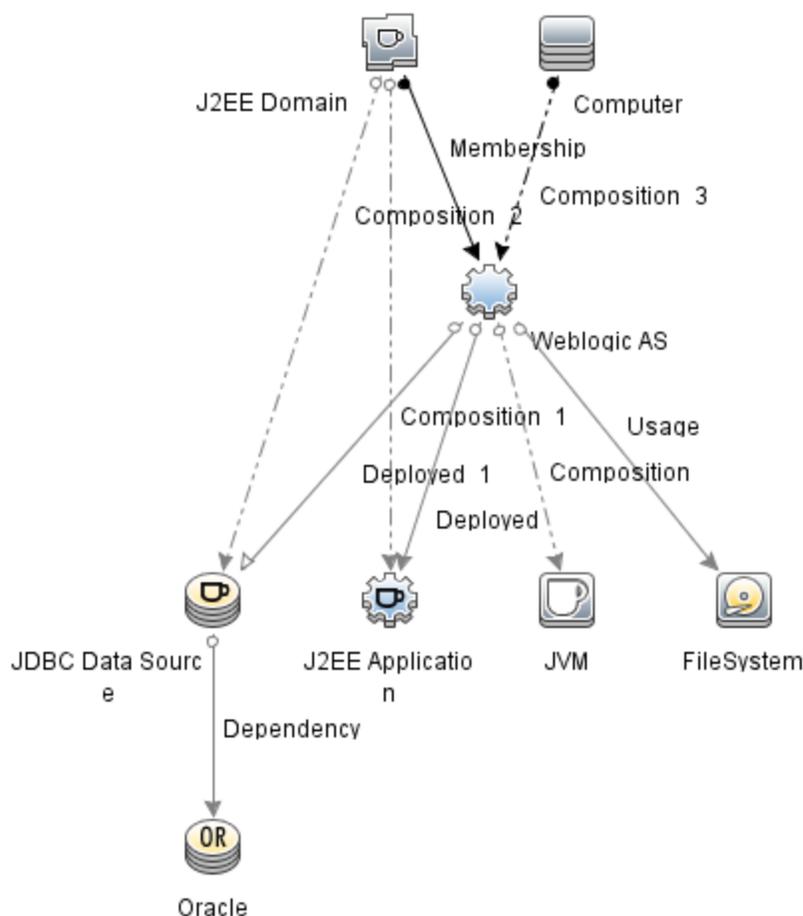
Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、WebLogic アスペクトをデプロイできます。WebLogic アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 6a: WebLogic 管理テンプレートの特定とデプロイ

WebLogic 管理テンプレートをデプロイする前に、WebLogic 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク 4: WebLogic 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebLogic 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source



以下の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した WebLogic 管理テンプレートを特定します。

- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネント (サーバステータス、JVM、JDBC、EJB、サーブレット、サーバログなど) と、インフラストラクチャの重要コンポーネント (CPU、メモリ、ディスク) を監視する場合、基本 WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント (トランザクション、クラスタステータス、キャッシュ使用率、スレッド、サーバログなど) とインフラストラクチャコンポーネント (CPU、メモリ、ディスクなど) を監視する場合、詳細 WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの詳細コンポーネント、Oracle データベースコンポーネント (基本クエリ、メモリなど)、インフラストラクチャコンポーネントを監視する場合、詳細 Weblogic とデータベース管理テンプレートをデプロイします。
- WebLogic アプリケーション サーバの主要コンポーネントと、インフラストラクチャの重要な部分である CPU、メモリ、ディスク (WebLogic エージェントレスアスペクトを使用して監視する WebLogic アプリケーション サーバのポートおよびアプリケーション URL の可用性を含む) を監視する場合、ハイブリッド WebLogic 管理テンプレートをデプロイします。

詳細 WebLogic およびデータベース管理テンプレート以外の WebLogic 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアспект] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアспект]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [管理テンプレート]

3. [WebLogic 管理テンプレート] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる WebLogic ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名およびパスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: 管理テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「**ユーザ権限**」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。
7. (オプション) パラメータのデフォルト値を変更するには、パラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: WebLogic アスペクトのデプロイ

WebLogic アスペクトをデプロイする前に、次の CIT の CI を検出するため WebLogic ベース アスペクトをデプロイする必要があります。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source

WebLogic ベースのアスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [アスペクト] > [WebLogic ベース]

3. [WebLogic アスペクト] フォルダで、[Weblogic ベース] をクリックして、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで WebLogic CI を選択し、[次へ] をクリックします。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、[タイプノードの CI も表示する] を選択します。

5. [必要なパラメータ] タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 および パスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「[ユーザ権限](#)」を参照してください。

6. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。
7. [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管

理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの表示] をクリックします。

8. [次へ] をクリックします。
9. オプション: 割り当てを直ちに有効化しない場合は、[割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. [完了] をクリックします。

残りの WebLogic アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバーの管理] > [Oracle Weblogic 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダでデプロイする WebLogic アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで WebLogic アスペクトを割り当てる CI をクリックし、[次へ] をクリックします。[Ctrl] キーまたは [Shift] キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、[タイプノードの CI も表示する] を選択します。

5. [必要なパラメータ] タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名およびパスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: WebLogic アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「[ユーザ権限](#)」を参照してください。

6. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。
7. [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 [エキスパート パラメータの

- 表示]**をクリックします。
8. **[次へ]**をクリックします。
 9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]**チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]**ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
 10. **[完了]**をクリックします。

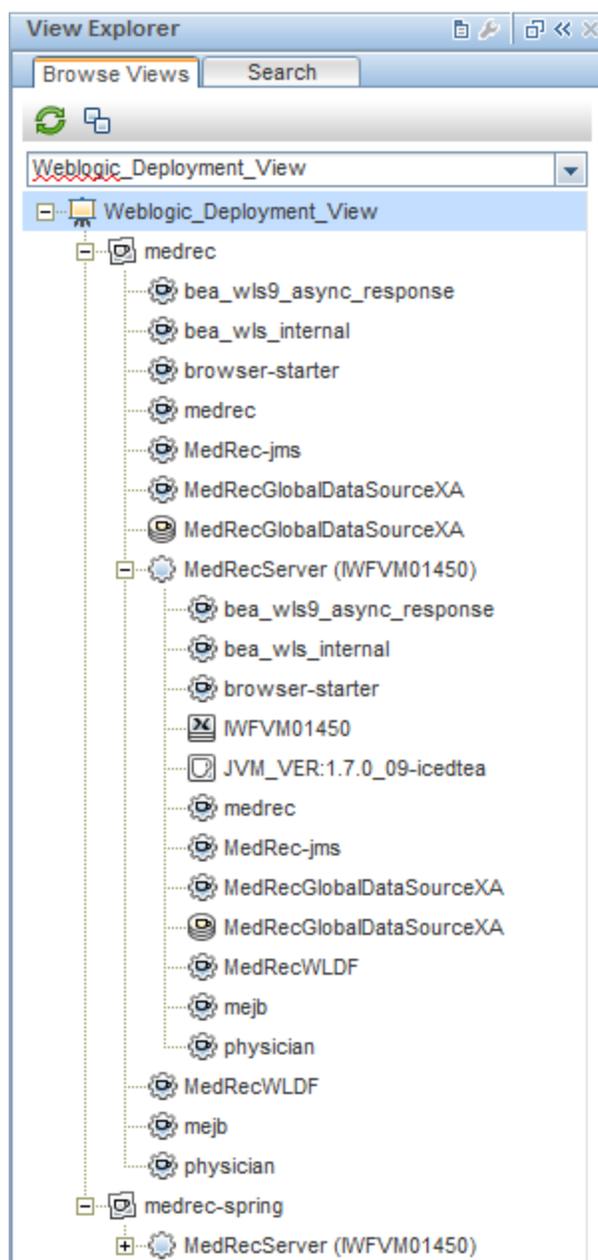
タスク7: 拡張トポロジの検出の確認

WebLogic 管理テンプレートまたは WebLogic ベース アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウンリストから **Weblogic_Deployment_View** を選択します。次の図に示すように、**Weblogic_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張トポロ

ジを確認できます。



ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Oracle WebLogic 1.01)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。